

平成30年度
第6回堺市堺区区民評議会
会議録

行政資料番号 1-C8-18-0141

平成30年 第6回堺市堺区区民評議会 議事録

開催日時	平成30年12月25日（火） 午後6時30分から午後7時30分
開催場所	堺市役所 本館3階 大会議室1
出席委員	川上副会長、奥野委員、碓塚委員、貴志委員、北野委員、隈元委員 松壽委員、間宮委員、矢本委員、湯川委員
事務局職員	堺区役所 泉森副区長・福田保健福祉総合センター所長 （企画総務課）大黒課長・山口参事役・藪課長補佐・大仲主幹兼係長 岩野主査・川瀬主査
傍聴者 （一般）	5名
議 題	1 開会 2 議事 答申案について 3 閉会
資 料	資料1 30年度実施モデル事業評価 資料2 堺市堺区区民評議会 平成30年度 答申（案）

議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
事務局 (企画総務課長)	<p>1. 第6回堺市堺区区民評議会 開会</p> <p>ただいまより平成30年度第6回堺市堺区区民評議会を開催します。 本日の会議は、堺市区民評議会条例施行規則に基づき、公開として います。なお、会議の記録のため、必要に応じ、写真撮影、録音等 を行い、内容については、会議録を作成し、堺市のホームページへの掲 載や市政情報コーナーへの配架いたします、ご了承くださいますよう お願いいたします。</p> <p>本日は、10名の委員の方がおそろいです。小池委員、木下委員は欠 席です。また、本日岡田会長におかれましては、大学での緊急の対応 が発生しまして、そちらの対応が終わり次第こちらに駆けつけていた だくご連絡をいただいています。</p> <p>現在10名ですので、堺市区民評議会条例の規定により、会議が成立 していることを申し添えます。</p> <p>それでは、堺市区民評議会条例の規定により、川上副会長に議事の 進行をお願いいたします。</p>
川上副会長	<p>2. 議事 答申案について</p> <p>2年間にわたって、「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」のま ちのあり方について～参加でつくる「堺区の都市魅力」の実現～とい う諮問事項のもと審議いたしました。29年度末、中間報告を出しま した。今年度、30年度は、その中間報告で示しました考え方や方向 性のもと、モデル事業やフィールドワーク、視察などを行いまして、 その都度審議を進めてまいりました。ここまでの議論を受けまして、 取りまとめたものがこの資料2、答申案ですね。</p> <p>そして、答申案よりも先立ちまして、まず、委員の皆様にも本年度実 施のモデル事業5つですが、それぞれの評価をいただきました。この モデル事業評価のご意見からいただきたいと思えます。皆さんの評価 を、数字で表していますが、あまり真剣に考え過ぎると普通ばかりに なってしまうといひますか、結構散らばっております。右上と左端に 数字が入っているものとか、非常に極端な例もありますので、そのあ</p>

	<p>たりを皆さんにお聞きしたいと思います。</p> <p>まず、「地域力の強化」で「浅香山GENKIプロジェクト」。これ左側（自立発展性が乏しい）全部0です。ということは自立発展性がもう既に進んでいるという証拠ではないかなと思います。これは色々な団体が入っておりまして、一人が引っ張っているわけじゃない。その人が抜けてもまだまだ継続していきたくらうということ、自立発展の道にはもういっていると思います。しかも、フリーマーケットで出た余剰金をまた別のところに使うとかそういうプランもしっかりとでき上がっていたので、こういう評価になったのではないかなと思います。その中で、自立発展性がさらに伸びるだろうということと、事業効果も高い、右上のところ丸をつけた方はどなたでしょう。</p> <p>その方の意見をちょっとお聞きしたいのです。</p>
<p>貴志委員</p>	<p>私は、自立発展性が高く、事業効果としては普通というところに丸をつけさせてもらいました。この「GENKIプロジェクト」はうちの近くなのですが、そんなに広いところでしているわけではないので、例えば堺市全域からの集客というところではない、できないです。小規模な、地域の皆さんでやっている地域のためのというかたちなので、これからこれがすごく収益が上がるとか、そういうことではないかなと思います。この小さなものをそのまま他の地域に持って行く、やり方は色々あるでしょうけれども、コンセプトだとかやり方としては発展して行って、地域的に広がっていくのではないかと、そういうところから発展する可能性が高いのではないかなということを考えております。</p>
<p>川上副会長</p>	<p>今のご意見について、何か。他の地域でもやれるのではないかなというふうに私はお聞きしましたが、どうですか。</p> <p>湯川さん、どうですか。</p>
<p>湯川委員</p>	<p>そうですね。何かモデルができてそれを参考にする、同じようなやり方で、他のエリアに広がっていったら、すごくおもしろい。それぞれの地域の人たちが自主的に取り組んでもらえたら一番いいのかなというふうに思いました。</p>
<p>川上副会長</p>	<p>他のエリアといっても、小さい地域ということを言われましたので、この堺区の中でこういうものが幾つかできたら活発になるのではない</p>

	<p>かなというご意見だと思います。</p> <p>次、「大道筋まちのデザインC a f e」。これにつきましては、事業効果は高いというところにすき間があいてますので、あまりそちらには行ってない。これ、事業効果が低くて、自立発展性も乏しいにはどなたが丸をしていますか。</p>
北野委員	<p>すみません。一生懸命なさってすばらしいと思いますけれど、まだ単体でなさっただけで、地域住民の参加の方がどれぐらいあるかなと感じたのと、「GENKIプロジェクト」との比較で、何か広がりがないかなか望めないのではないかと。というのは、不動産をお借りしてということの難しさが前に立ちはだかっていると思うのです。夢はすばらしいと思うけれど、可能性とかやり方の難しさとかで、少し他のことをして、エネルギーをそっちに向けたほうがいいのではないかなと思ったものですから。こういう低い評価になりました。</p>
川上副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では逆に、可能性が高くて事業効果も普通ですよというところに印つけた方、少しご意見をお聞きしたいですが。</p> <p>ご出席の方ではないようですね。</p> <p>では次、「サカイサンセットガーデン」。これも特色ありますよね、下一行（事業効果が低い）が全部マーキングなしということですが、自立発展性が非常に低いのです。それか普通という場所に丸つけた方、4名なので、必ずいると思います、矢本さん、ここですか。</p>
矢本委員	<p>私、乏しいです。</p>
川上副会長	<p>乏しいにつけたということで、少し何かご意見を。</p>
矢本委員	<p>先ほどの2つとも関わりますけれども、基本的にイベントではまちは発展しないと私は思っていて、対費用効果が全てではないのですけれども、前も申したかもしれませんが、全国の商店街で補助金がどんどんこういったイベントに落とされて、各地域としての役員さんとかが取り組んで、どんどん疲弊して行って、結局イベントやっているときは人が集まる、お客さんは来るのですが、じゃあそれをもって継続的に人が集まる仕組みづくりができていくかということ、なかなかそういうことができてないところが一番です。</p>

	<p>事業性は中身の会計を見てないので、何とも言えないのですけれども、イベントで自立発展ができるかという、こういった出展系のイベントでは、なかなか発展が見出せない。ましてや、出展者にしても地域の周りからニーズがあってやっているわけではなく、この場所があるからここでやった的なところに難しさを私は感じました。</p>
川上副会長	<p>経験からのご意見ですね。よくわかります。</p> <p>次は、「子ども観光ガイド」。これも何かございますか。こういう数字になってしまうとあまりご意見ってないですけども。もっとやれという感じでしょうか。</p>
隈元委員	<p>この「子ども観光ガイド」って非常にいいことだと思うのですが、川上さんが観光ボランティア協会にいらっしゃるのですが、子どもだけではなくて高校生、特に大学生に広げてもいいと思います。観光ボランティア協会には大変失礼ですけど、高齢化になっていってではないですか。そういうなかで、郷土愛というところを大学生ぐらいまで引き上げてやっていくという展開にしていくと、もっと広がるのではないかなと思います。子どもさんとやるのもいいことだし、これにおさまらずに若い人たちがガイドするところまで広げてほしいです。大学生だと単位をあげてもいいので、夏休みにやるとかね。小学生でやった子が大学でもまたできるともっと広がるのかなという気はいたしました。</p>
川上副会長	<p>いいご意見ですね。私たちの協会も平均年齢70歳超してしまいました。松壽さんもよくご存じだと思うけど、結構皆若く見えるでしょう。</p>
松壽委員	<p>はい、そうですね。</p>
川上副会長	<p>それは余談として、最後の「自転車タクシー走行社会実験」というのがあります。これの数字ってこういう統計をとったら非常におもしろいです。対角線上に右上と左下がこのように数字があるということですが、左下のところいきましょうか。発展性もないし、事業効果も低いというところに3名おられます。この中に誰かおられますよね。順番にいきましょう。</p>

<p>礎塚委員</p>	<p>私、自立発展性乏しくて、事業効果も低いというところに丸をつけさせていただきましたが、この実施モデル事業の説明を見て評価させていただいて、構造上仕方ないと思うのですけれども、これを堺の伝統産業である自転車とって売り出すのは、何か自転車っぽくなく、少し無理があるかなというのを見ていて感じます。それに加えて、電車やバス、コミュニティサイクルなどの交通網がこの堺の近辺で非常に充実しているので、その交通の便にまさるぐらい発展するのかなと考えるときに、これは皆なかなか利用しないのではないかなと思いました。</p>
<p>貴志委員</p>	<p>ほぼ同じ意見なのですけれども、この自転車走行実験の案内を初めて見たときに、ふと思ったのが京都の人力車です。人力車を自転車に置きかえたイメージを持ったので、そう考えたときに、じゃあ堺でどうやってどう公道を走るのかなとか、そもそも車の走る道が非常に多い、車が走らない道のほうが少ないかと思うので、そこは自転車が観光ですとって走れる状態をつくらないとなかなか走りきれないのではないかなと。</p> <p>社会実験なので仕方がないのでしょうけど、一台、二台走ったところで、目立たないので、認知がされないのではないかなと。だから、広がりをもたすのは非常に難しいのかなと思いました。</p> <p>ただ、自転車というのは堺が重きを置いている地場産業なので、ツールとしては非常におもしろいかなとは思うのですけど、ハードルが高いかなと思っています。</p>
<p>隈元委員</p>	<p>私はハート&トークセッションの日に500円払って、市役所前から乗りました。ついだから、怖い道を走ろうと思って、運転する方にフェニックス通り走ろうと言って、行ってみました。そしたら、安井町の交差点、すごく怖かったんです。東から西へ行くので、車が途切れなくどんどん左折していく。</p> <p>ところが一方で、ものすごく低い視野なので、道路の真ん中側がすごく盛りあがってるねとか、道ってどんどん西から東へ高くなっていったるねとか、いろいろなことがたくさん発見できました。今のままだったら、おっしゃるとおりで、発展性もないというのですけども、例えば、ルートを決めて、大道筋の南から北までのところを決めてやると、これは高低差が全然なく平たんなのです。東西のルートだと、堺東から堺駅へは行きやすいのですけど、堺駅から堺東だと上りばか</p>

	<p>りで、とてもではないけど、大変です。そういうところで、先ほどおっしゃった人力車みたいに南宗寺、利晶の杜から松壽委員のお寺のあたりまで、伝統産業館を通っていく限定ルート进行るとか。あるいは、仁徳天皇陵古墳の周辺でどこか決めて、大仙公園でルートを決めてやるとか。そこで、少し歩くのは大変だけれども、ゆっくりと見てまわりたいという方を対象に見せるとか、おっしゃる人力車っぽく走らせるとかです。どこかある程度限定ルートでしないと、今のような使い方は、事業効果も自立発展性もどちらも難しいように思います。考え方によってはまだまだ化ける可能性はあるなという、こういうところでございます。</p>
川上副会長	<p>私は、運転する人が、信号で停まるたびに案内できたらいいなと思いました。そしたら、料金を3倍にしても、多分大丈夫です。古墳と中心市街地を結ぶというのは、公共交通機関に任せておいて、先ほど言われたように、ルートを決めた循環でやれば採算がとれると思います。どこかの団体がやってくれないとですけども、人力車があればもうかってますからね。あれぐらいの台数をもってやれば、何か方法あると思います。</p>
隈元委員	<p>ボランティア協会さん、年配の方はこげないですね。</p>
川上副会長	<p>そういうガイド機能を加えたりという方法で生かすことはあるけど、今のままのタクシーという感じでは、難しいと思います。</p> <p>ただ、このように非常に評価が割れたので、そういうことではないかなと思います。</p> <p>松壽さん、何かありませんか。</p>
松壽委員	<p>私は自転車タクシーの社会実験、可能性が高くて事業効果も高いに丸をつけています。どうしてかという、やはり先ほど川上委員が言われたように、私も採算次第で自立発展性はありそうだと思っています。ただ、その採算で、堺市の財源とかを事業の継続性とかに投入すべきではないと思っています。私自身は、市の財源は先ほど話に出た自転車専用道路の整備などに入れて欲しい。やはり走りやすく、車も自転車も危ないのです。自転車のまちの割には自転車に不便でもあるし、そういった部分の整備と観光地のPR活動というところに、積極的に堺市の財源を投入してほしくて、ただ、その事業の継続性と</p>

	<p>かには財源というのは使ってほしくないなと考えていました。なので、自転車タクシーの採算がとれるように、環境整備のほうで後押しというのが、とても必要になってくる事業なのかなと考えました。</p>
川上副会長	<p>では、次に総合的な話ですけども、どれということ固定せずに、間宮委員。</p>
間宮委員	<p>私は全て真ん中に丸をしたのです。全て普通かなということで。全体的に言えることは、全て普通なのかなと。それが悪いという意味ではなくて、評議会自体もすごく普通なのです。だから、色々なことが可能性であったり、効果性で色々なことを話し合ったり議論していくというのは、とてもいいことなのですけども、結局実行して、いい悪い別に評価が出て、すると何かすごくメリハリがついて、いろいろなことが発展していくと思うのですけれども。そこがなかなかできない。その普通さがいいのか、悪いかわからないのですけれども。今回の評議会の議題自体が、主題がありそうでないなかで、難しいです。いいと思うんです。ただ、普通になっていくと刺激がなくなってくるので、トーンダウンしていくのが少し寂しいなというところです。そういうなかで、先ほど川上委員がおっしゃったように、何かメリハリがついているものが、逆にいいのではないかなというところですかね。「子ども観光ガイド」も極端についていますし、先ほどの「自転車タクシー」も低いというのが3点あたりするので、何かその辺に、逆に可能性があるのではないかと。せっきゃく議論していくのであれば、普通ではなくて特化したものであったり、これは違うだろというものを逆にとりあげたりして、議論していくことがこの表を見て、必要ではないかなということをおもいました。</p>
川上副会長	<p>奥野委員も、総合的にお願いします。</p>
奥野委員	<p>私は、イベントに関しては、サンセットガーデンやGENKIプロジェクト、デザインCafe、行けなかったのも、資料や伝聞情報から評価させてもらいました。コメントで少し加えたいのは、こういう賑わいづくりイベントのわかりにくさ。やってる人たちはよくわかっているかもしれないけど、外部の、私なんか近所から行こうとすると、フリーマーケットなのか野菜の販売をやっているのか、子どものイベントなのかとかよくわからないので、何となく二の足を踏んでし</p>

	<p>もう。だから、地域の人だけやるのだったらいいのですが、堺区以外の人も来るのだったらもう少し見せ方をわかりやすく、ぱきっとしたものにしていかないと厳しいのかなと思いました。</p> <p>事業効果が高いとしたのは「自転車タクシー」なのですが、高いというのは自転車好きのひいきが入っていると思うのですが、たしかにタクシーの事業として考えた場合、そんなにお客さんが乗るかという、乗らないでしょう。料金も、500円はちょっと躊躇する値段ですし、あまりビジネスとしてはうまくいかないだろうなという感じです。ただ、先ほどいろいろな委員がおっしゃったように、自転車文化の、自転車のまちとか自転車文化を発信するというシンボルとしてはいいのかなと思っています。例えば、愛媛県だったら自転車のヘルメットはみんなかぶっているし、自転車のカルチャーがありますが、堺だとまだまだない。自転車関連の企業、パーツの製造企業や、ショップもいっぱいあるし、レースも行っているけど、自転車文化がまだまだというところなので、そのテコ入れとして続けてもらえたらいいなと思いました。コースに関しては、やっぱり高低差があるので、百舌鳥古墳群をぐるっと回るようなコースとか、いろいろな工夫ができるかなと思いました。</p>
川上副会長	先ほどの見せ方をぱきっとするというのをもう少し詳しく。
奥野委員	<p>ポスターにしろ、ネーミングにしろ、賑わいづくりを目的としたというところにしろ、もう同じような手ざわりを感じるというか。運営される側はわかっているのでしょうか。外部的には何をやっているのかよくわからない。そういうのがつかみにくいというのが、私の言いたかったことです。</p>
川上副会長	じゃあ、ネーミングのアイデアって何かありますか。
奥野委員	<p>本当に、なんとかフリーマーケット、なんとか市場とか、わかりやすいのにしてもらえたらいいかなと思います。</p>
川上副会長	<p>わかりました。</p> <p>そうしましたら、どこかに特化してお話をいただいた方もありますが、全体を考えて、北野委員、何か。</p>

北野委員	<p>この区民評議会に入らせていただいて、具体的に何かをひとつ残していくということをやってみたいと考えてまいりました。なかなか難しいことで、それはあまりにも議論の幅がたくさんあって、さっきおっしゃったように何かに特化して、何かひとつでもって思ったときに、この全体の中から見ると、可能性のあるもの、委員の方々皆さんが、これならやってみようと思うことを、ひとつ掘り下げて押し出していいのではないかと思います。見た感じ可能性のあるのは、私は、「子ども観光ガイド」だと思います。子ども観光ガイドは、観ボラさんが高齢化しているのなら、さっきおっしゃっていた大学生に堺の歴史をまずレクチャーして、大学生が小学校に行き、一緒に歴史を学びながら案内していくことを立ち上げると、人気が出るのではないかなと思います。これは、子ども観光ガイドという言葉にしなくて、何か違うネーミングがあってやっても、若い人も含むという意味でいいのではないかと思います。</p>
川上副会長	<p>ありがとうございます。今のご意見に対して、間宮さん。</p>
間宮委員	<p>本当におっしゃるとおり、皆さんもすごい高い評価があって、ボランティア協会自体が高齢化されていると思いますけれども、やはり、それなりの知識と経験をすごくお持ちだと思います。それを子どもたち、若い人たちに教えていく、ひとつの観光学校みたいなものができれば、そこへ行くと高齢の方が若い人たちに観光の仕方を教えてあげると。一緒になって何かやっていくような、子どもなのか高齢者なのかというのではなくて、市民全体がそういう観光を支援していく学校みたいなものをつくれれば、すごく発展性があるのかなと思います。やはり、子どもと出してしまうと、何か逆に中途半端なものになってしまうので、川上さん達がずっとやられていたことを、多分ボランティア協会の方々はお仕事をリタイアされたりして、時間があつたりという方が積極的にされていくのですけれども、それをもう少し何かみんなで支援して、それがすごく堺市としては魅力的な団体、そういうものになっていくと、どんどん輪が広がっていくと思うので、せっかくこれだけ皆さん高い評価があるのだから、これをただ単に子ども観光ガイドにとどめず、もっと広げていって発展していけば、すごくいいものができていくのではないかなという気がしました。</p>

川上副会長	<p>それだけ言えば、答申書に入ってくると思います。 矢本さん、何かないですか。</p>
矢本委員	<p>そもそも論から少し聞きたいのです。まずこのモデル事業ですよ。モデル事業が何を目的にしてつくったか。見える中でジャッジはさせてもらいましたが、コンセプト、ターゲット、広報、事業性、その中でジャッジというのが非常に難しかったです。その中で、私が個人的にわかりやすく思ったのは、この「GENKIプロジェクト」と「子ども観光ガイド」です。目的は「地域力の強化」というところで「GENKIプロジェクト」というのは、地域の連携をしていたというところで、地域力の強化にはつながったのではないかと、想像ができます。「子ども観光ガイド」については、「郷土愛の醸成」なので、これについてはやはり私は子どもというところに優位性があると思っています、私実際に行きましたけど、素直な子どもたちが元気にそれを学んで、発表しています。ここには採算性はありません。子どもたちは稼いだり、ふだん仕事をしないといけないわけではないので、単純に学びや発展の時間をこういったことに当てられるというところで、非常にわかりやすい二つだったのかなと。あとは、こういう、目的というか、今回の答申に対して、位置づけられてはいますけど、本当にそれに向かってこれをやるのが、何をめざして、例えば、このイブニングマルシェとかもそうですけど、働きやすい環境の整備になっていますが、イブニングマルシェをやるのが働きやすい環境の整備とは正直、首をかしげてしまうのです。どれだけ集客できて、にぎわっていてもです。多分にぎわいを目的にしていたのではなかったと思うので、それに対してどれだけの効果があったかというのが、もう少し深く見せていただきたいなど。でないとは少し判断しかねるなというところです。</p>
川上副会長	<p>ありがとうございます。モデル事業評価はこれぐらいにしましょう。続きまして、資料2、答申案。これも案ですので、今皆さんからいただいた意見がここに加わってまいります。 まず、この案の資料2について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (川瀬主査)	<p>事務局より、資料2の説明。</p>

川上副会長	<p>ありがとうございます。答申案についてお気づきの点など、ご意見いただければと思います。例えば、フィールドワークと視察のことが途中にありますけども、これがどう答申案に生かされているのかとか、どこにもひっついてないよねとかそういうご意見でも結構ですので、ございましたらお願いします。</p> <p>隈元委員、ないですか。答申案そのものでも、構成に関して。</p>
隈元委員	<p>構成で言ったらモデル事業をやりましたとあって、こうでしたといったのが最後の施策・事業を進めるにあたってといったところになってきたら、今までモデル事業をやったのがどうなってこれに関係づけていっているのかわかりにくいです。先ほどからお話がありました、今回ものすごく幅広く広げてやったために、何となく全体のものを見てきましたというじかたちになっていますけれども、答申しようと思うと、それどうだと言わなくてはいけないから、グランドデザインがあって、それぞれにこういうことをやっていきたいというのがあって、その中でこれをやったけどもこうだった。だから、この部分についてはいいのか悪いのかとか、ここはやめるとか、そういう筋立てだと物すごくわかりやすいのですが、何か大きく広げて、こういう旨の事業をやったけれども、最終的にそれがこの推進体制についてどう結びついているのかといったところが少しわかりにくくて、説明しにくい、言いにくいところかなというふうに感じているところです。</p>
川上副会長	<p>どうもありがとうございます。他はないようですか。</p> <p>では、今の内容と先ほどのいろいろな方にいただいたご意見を全部まとめます。会長と事務局でまとめまして、それを皆さんにご確認いただいて、答申書ができ上がるのだと思っております。</p> <p>では、今回を持ちましてこのメンバーの評議会は最後でございます。最後に何か言っておきたいこと、先程2名の方が言われましたけれども、言っておききたいことございましたら、どなたでも結構です。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>事務局代表しまして、おわびなのですが、1週間前に送らせていただいた案と重要なところをさわらせていただいたので、多分一度お読みいただいた方も、今回お手元の資料を見て、変わってるという、本当に我々事務局の不手際でございます。その点につきましては、深く反省しております。申し訳ありませんでした。</p>

川上副会長	<p>もう言い残したことはないですか。 では、副区長ご挨拶をお願いします。</p>
泉森副区長	<p>本日は区長が所用のため、欠席をさせていただいております。私のほうからご挨拶させていただきます。</p> <p>昨年の委員改選後、早くも2年近く経過したという状況でございます。委員の皆様におかれましては、公私何かとお忙しい中、時間を割いていただき、評議会にご参加いただき、各方面からいろいろなご意見を賜りました。熱心に審議を賜ったことにつきまして、あらためましてお礼申し上げます。どうもありがとうございます。</p> <p>今回の諮問内容が、「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」のまちのあり方についてでございました。非常に難しい幅広い課題への挑戦でございましたが、29年度・30年度とご審議いただき、その間に堺区の選出議員との意見交換会や、堺区内のフィールドワーク、また北浜水辺協議会の視察などを行い、様々な審議を深めていただいたところでございます。また、いただいたご意見に基づいて、子ども観光ガイドをはじめ様々な取組を行ってまいりました。参加された皆様からは多くの好評をいただいているところでございます。先ほどご意見いただきましたように、イベントだけでは終わってはいけないと、仕組みもつくっていくということも必要かと感じております。</p> <p>現時点におきましては、評議会のご意見を今後答申として、今回のご意見もいただきまして、答申としてまとめさせていただく所存でございます。まとまりました答申につきましては、今後の区政の推進に向けた礎とさせていただく考えでございます。今年も残すところわずかとなりました。今週末には厳しい寒波も訪れるということが予想されております。今までの熱心なご審議にお礼を申し上げますとともに委員の皆様におきましては、お体にご自愛にいただき、健やかに新年をお迎えになることを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p> <p>3. 第6回堺市堺区区民評議会 閉会</p>
川上副会長	<p>以上をもちまして、平成30年度第6回堺市堺区区民評議会を終了いたします。皆さんの2年間お疲れさまでございました。ありがとうございます。</p>